

## 第1回基山町立学校通学区域審議会【要点筆記】

日 時：令和4年8月3日（水）14時00分～15時10分

場 所：基山町役場4階大会議室

参加者：委員：審議会委員（13人）：天本委員、山里委員、尾石委員、原委員  
平野委員、梁井委員、中川委員、鳥飼委員  
福山委員、末安委員、高木委員、山本委員  
山田委員  
欠席：中菌委員、熊本委員

教育長：柴田教育長

事務局：今泉課長、長野係長、音成指導主事、水田指導主事

傍聴人：なし

### 1 開会

長野係長 開会のあいさつ

### 2 教育長あいさつ

- ・基山町の課題について 学校規模の適正化
- ・若基小のキャパをどう生かすか
- ・子育て世代の流入による基山小の増加、特別支援学級の増加により教室が足りなくなり、毎年増設工事をしている状態
- ・通学区域審議会の経緯 R2小規模特認校の導入について決定
- ・町の施策・定住促進課 コミュニティバスの活用  
教育学習課 トイレの洋式化（R3）、中庭人工芝（R4）
- ・子どもたちの未来のために忌憚のない意見をお願いしたい

### 3 委員の委嘱

- ・審議会委員の委嘱は、机上の委嘱状をもって代えることとする。
- ・委員の氏名、役職等は資料を参照。

### 4 会長選出

- ・会長及び副会長の選出は、基山町立学校通学区域審議会規則第3条第2項により、委員の互選によって定めることになる。
- ・会長の選出について  
⇒委員からの意見なし。  
⇒事務局より、山里委員を会長に、尾石委員を副会長に推薦する。  
⇒委員の承認。  
⇒山里委員が本審議会会長に、尾石委員が副会長に承認され、決定する。

## 5 議事

基山町立学校通学区域審議会規則第3条第3項により、会長は会議の議長となる。よって、以後は、山里会長が議長となる。

- ・事務局より、水田指導主事が議事（1）、今泉課長が議事（2）（3）を説明する。

### （1）小規模特認校制度について

- ・小規模特認校制度・・・基山町全ての児童が若基小に通うことができる制度でR3年度から運用  
R4の若基小1年2クラス
- ・現在の利用者12人（別紙資料）
- ・周知等について・・・基山小1～5年（5月）、年長児保護者に5回シリーズで配布（7～11月）、HP、不動産会社や県外在住者から問い合わせがあっている
- ・就学時健診の際に保護者の意向を聞く予定

### （2）今後の児童数の推移について

- ・～令和9年度までの児童数の推移（資料4）
- ・基山町の増加の傾向・・・出生から入学時までで20名程度増加する傾向にある  
年少時に基山町に転入が多い
- ・基山小・・・現1年生が最多で、少子化の影響を受けて年々に減少傾向にある  
120人前後の入学、R8年度がピーク（4クラス以上になることはないと思われる）  
年間200戸ずつ開発 増加見込みだが基山町だけ増え続けることは考えられない
- ・若基小・・・現1年生44人で2クラス、出生から増加傾向、今後も1年生40人前後で推移すると思われる
- ・宅地開発（資料5）について

### （3）現在の学校区と今後について

- ・「学校規模の適正化」＝若基小を通常学級12クラスにする（目標）
- ・小規模特認校制度で毎年5～10人程度若基小に行けば、5、6年後には12クラスに
- ・基山小学校区も1年生のピークはR4年度
- ・基山町にも少子化の流れがくるので、学校区の変更は不要と思われる

委員 → 基山小と若基小の特色の違いは？

⇒ 教育内容は学習指導要領という枠組みの中でやるので、大きく違いはないが、  
クラス数に余裕があるので、学習活動が余裕をもってできる、体育でもプール・  
体育館などとゆとりをもってできる。

委員 → CSで取り組もうとした「オキナ草」など、特色がでる。児童に喜んできてもらうには、「若基小にきたら、こんなことができる！」と思われるような特色を出してほしい。

- 委員 → 小規模特認校の紹介であがっている 10 個の特徴がまさに特徴。  
基山小と若基小と迷った。大きい学校より小さい学校の方が先生方の目が行き届くと思って選んだ。グラウンドも広く使える、コロナ禍でのびのび過ごせる。ただ、ずっと 6 年間同一クラスという環境や、先生 1 人で 40 人以上のクラスもあり、十分に目が届かない状況は課題である。
- 議長 → P R 活動は役場の中だけか？  
⇒ 幼保小連絡会（先生方対象）や就学相談会（保護者）、若基小 H P の動画  
入学のタイミングが制度を利用しやすいので新 1 年生をターゲットに周知  
5 回シリーズでちらしを配布
- 委員 → 若基小校区の人数を少しでも増えるように住宅取得補助金の加算の 1 つに R 3 ～「若基小校区加算」をつくった。（7 世帯 28 人が利用）  
開発業者にも特認校制度を P R していきたい。  
⇒ R 4 制服の補助を行っている。コミュニティバスの利用料金の補助を考えている。
- 議長 → いつでも授業参観できるか？  
⇒ はい。
- 教育長 → 学校だよりでも P R している。C S で体験活動（ふれあい農園）なども特色になる。学力向上も特色になるので、放課後無料塾などの活用も進めたい。  
幅広く知らせるために町の広報誌等を活用したい。  
5 年生 4 3 人のクラスに町費で非常勤教員を採用し、4 0 人以上になる授業の時や給食のときは 2 クラスに分けている。  
R 5 基山小特別支援学級希望 2 0 名程度 → 1 年生 3 クラスになるかもしれない。  
R 5 若基小 1, 2 年が 2 クラスになると合計 8 クラスに。特別支援学級に何人入るかによる。  
若基小前にバス停新設、ダイヤ改正は随時、情報開示したい。
- 委員 → 若基小の人数をいかに増やすかは理解できる。一方、基山小の増加率も看過できない。確実に児童数が増える。よりよい教育をするにはどうすればよいかも考えてほしい。
- 委員 → 3 区 5 名特認校を利用しているが、その理由を知りたい。住宅地の開発もありそうなので、元々基山町民なのか、新規転入者なのかも。
- 委員 → 若基小の特色の中で、1 番最初のころは「学童保育は余裕がある」だった。  
「若基小に行ってください！」というのではなく P R してほしい。負い目の施策に聞こえる。同じ町立なので格差はつけられないだろうが、例えば放課後のスポーツ活動など、特色を見出してほしい。スペースもたくさんあるなら、ボルダリングなど。
- 委員 → 若基小は小規模特認校で解決するかもしれないが、基山小の教室不足は解決しないと思われるので、校区の見直しに踏み切ってもいいのでは。
- 委員 → 町全体のバランスを考えたら、校区の見直しが 1 番だと思う。簡単に O K とはいかないだろうが、将来的に考えると校区の見直しがベストなのでは。
- 委員 → 今後の推移を見ると、基山小の全く予備スペースがない状況は問題がある。  
⇒ 通常学級は足りる。特別支援学級がどのくらいになるかだが、現在、特別支援学級の

あり方も見直しがあっている。R5はもしも足りなくなったら、外だしすることを検討しないといけない。「負い目」の施策にならるように、発信の仕方も検討していく。

委員 → 20年前は基山小と若基小、全く逆の状況だった。また、20年後数字の逆転が起こるかもしれない。町の開発をどう考えるのか、小手先の施策ではうまくいかないのではないか。

自分自身、田代小と基里小と自由に選べる校区だった。親が選んだ理由は「通学が安全だったから」。バスを使えると有効な手立てになると思われる。若基小に隣接している区などの保護者の要望を吸い上げるとよいのでは。

委員 → 基山小に対する地域愛はすごいので、外部からの方に発信する必要がある。基山小校区の新しい開発地域にマンションなどができれば、マンション丸ごと若基小、といった施策も考えられるのでは。

教育長 → 鳥栖の桜町や松原町は基里小と田代小の自由校区となっている。両小学校に通う子どもクラブでも、そこまで混乱はあっていない。ある区とある区は自由校区にする、と若基小に気持ちがあくのでは。3区白土の公民館エリアの保護者は若基小が近いから、との理由で特認校を利用されている方もおられる。

自由校区というやり方を行った場合、区長さんは困られますか？

委員 → 3区の子どもが近所の友達がみんな12区だから、12区の子どもクラブに行ったらダメですか？と話を聞いたことがある。そういう面でのズレも出てくる。登校班などもどうしていくか。

委員 → 佐賀市には隣接校制度というものがあって、境界線のところは自由に選べる。3区、4区、10区は若基小に行けるし、逆に12区と13区は基山小に行けることも考えられる。

## 6 その他

事務局 → 次回については、事務局の方で今日いただいたご意見をもとに資料を作成してから開催日程を調整する。